

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年12月17日発行 No.92

『このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。0  
「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。』  
(マタイによる福音書 1:22~23)

<一足早く迎えた KIU クリスマス!! メッセージに、表彰に、祝会に…内容は盛り沢山!??>

12月中旬に入り、降臨節(アドベント)も終盤を迎えていますが、先週水曜日には神戸国際大学と附属高校に連なる教職員が神戸聖ミカエル大聖堂に集い、2018年度学院クリスマスが行われました!! 例年、ここでは20年&30年の勤続を称えて表彰が行われていますが、今年はそこに理事長就任式も加えられ、100名を超える礼拝出席者が心を合わせて、学院の新しい歩みを喜びと共に始める事ができました!! また高校の先生方が中心となって準備された祝賀会は、料理もゲームも盛り沢山の内容で、時の経つのを忘れるほどの楽しさでした!! 日頃、交流を持つ事が難しい高校の教職員の皆様と親交を深める良い機会となりました。



会場はおなじみのミカエル大聖堂



喜びの賛美で礼拝開始



八代新理事長を祝福される小林主教



理事長就任の感謝と責任を覚えて



永年勤続表彰も行われました



北中さんおめでとうございます!!



会場を下のホールに移して親睦会



小枝先生大活躍!! 校長賞をゲット!!



最後はお互いの校歌を共に斉唱

## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

12月10日(月) テーマ:「言葉の扉が開く時」

野間 光顕(チャプレン)

今日、新しい聖書の翻訳として「聖書協会共同訳」が発売された。日本に初めて聖書が伝えられたのは1832年、沖縄の那覇にやってきた宣教師カール・ギュツラフが4年かけて聖書を一冊一冊翻訳した事から始まる。ここでは「言葉」とか「神」という言葉が一般的でなかったので「カシコイモノ」や「ゴクラク」と訳した。この時、キリスト教に触れていたのは殿様や大名ではなく、港で生活する貧しい漁師たちであった。彼らの心に届く言葉で、日本最初の聖書は翻訳され、届けられたのだ。それから版を重ね、今の聖書に至るが、私たちが日常的に使用する「言葉」も、コミュニケーションの中で常に変化しており、それに伴い常に磨き上げる事が求められる。便利すぎるIT機器、SNS等によって言葉やつながりが崩壊している時代だからこそ、今一度「神の言葉」を見直しながら、アドベントの時を共に過ごしていきたい。

12月11日(火)

※この日は音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の素敵な演奏に耳と心を傾けました。次回は、12月18日(火)です!!

12月12日(水) テーマ:「隠されたクリスマス・メッセージ」 野間 光顕(チャプレン)

息子の通う幼稚園のクリスマス聖劇(イエスの誕生物語)の中に槍を持ったローマ兵がいてはっとさせられた。考えれば、一般的には華やかなイメージのクリスマスだが、聖書をよく読むと支配者が自己中心に権力を振りかざした事で、当時の社会が大混乱に陥っている様子が分かる。これは時が経った今でも変わっていないのではないかと? 自国の利益を最優先し、闇雲に他国を攻撃する。問題が起こっても責任を取らない。これではやっている事が2000年前のローマとさほど変わらないと思われ暗い気持ちになる。しかし、今一度注目したいのが「飼葉桶に眠る御子」、つまりそのような人間が作り出す混乱と矛盾、困難と苦しみの只中に、主が来られたという事実だ。先行きの見えないこの時代だからこそ、主の示される真の希望を胸に留めながら、喜びのクリスマスを迎えたい。

12月13日(木) テーマ:「観光のはじまりは信仰」

前田 武彦(経済学部)

大昔から人は旅を続けてきたが、それは食べ物や商売、また戦争が目的であった。今、私たちが「旅」と言われてイメージする「観光(レジャー)のため」の旅行は150年前にイギリスで始まった。特に「観光」のはじまりは信仰である。例えば、初詣や合格祈願などがそうだ。人間の力を超える何かの力にすがると、ここにある「信仰」を想起すれば、目には見えないカ=パワーポイントを求めて聖地を巡礼する、日本を造った神を祀る=伊勢神宮参りや弘法大師を祀る四国88か所巡礼もその一つだ。そう、「観光のはじまりは信仰」。この冬にどこかへ旅行する予定のある人は、自分の中の見えない精神的な部分を意識しながら歩んで欲しい。

12月14日(金) テーマ:「スウェーデンのクリスマス」

山口 宰(経済学部)

クリスマスが近づいてきている。カレンダーや町の飾りを見るとウキウキするが、そんな時留学していたスウェーデンで迎えたクリスマスを思い出す。北欧の冬は夜が長く、そして寒さも桁違い。そんな中、夜と昼の日照時間が変わる冬至はとても大切な意味を持つ。スウェーデン語ではクリスマスのことをユール(Jul)と呼び、「聖ルシア祭」や「ユール・トムテ」(サンタのような小さな妖精)など、様々な違いがある。「所変われば品変わる」と言うが、クリスマスは世界中の様々な国で、その国の伝統と結びつきながら祝われている。クリスマスという一つの基準を通してその国の文化を見ると、また新しい発見があるかもしれない。KIUに繋がる皆さんに素晴らしいクリスマスが訪れることを心から祈っている。(文責:野間 光顕)